

別表5

採用場所	日本海区水産研究所 資源管理部 資源管理グループ 新潟県新潟市中央区水道町1丁目5939-22
研究課題名	「日本海における漁業・海洋情報の統合的解析による漁況予測手法の高度化」 1) 表層回遊性資源の漁況に影響する環境要因の抽出 2) 海況予測システム等を活用した表層回遊性資源の漁況予測技術の開発 3) 人工構造物が表層回遊性資源の回遊生態へ及ぼす影響に関する基盤的知見の整理
研究業務内容	<p>日本海においては、定置網漁業や中小型まき網をはじめとする沿岸漁業、いか釣りや大中型まき網といった沖合漁業により、イワシ・アジ・サバ類、ブリ、クロマグロ、スルメイカ等、様々な表層回遊性資源が漁獲されている。各魚種・各漁業種における漁獲量は、資源状況のみならず、海況によって来遊状況が変化することにより大きく変動する。現在、漁況予測における海況の活用は定性的な場合が多いが、近年、日本海においては、特にスルメイカやブリ、マイワシなど、資源動向と漁況とが必ずしも一致しない事例があり、資源の来遊と海況との関係の解明が強く求められている。さらに、近年、日本海沿岸各地では大規模な洋上風力発電事業計画が相次いで公表され、洋上風力発電施設のような人工構造物が表層回遊性資源の回遊生態に及ぼす影響の把握が求められている。</p> <p>これらの課題に対応するために、次に掲げる研究開発を行う。</p> <p>① 海洋観測、衛星データ、海洋モデル等で得られる環境情報と漁況との関係を統合的に解析することにより、表層回遊性資源の漁況に影響する環境要因を抽出する。</p> <p>② スルメイカ、ブリ等を対象として、資源状況や直近の漁況に加えて、海況予測システム等を活用した漁況予測技術へと発展させる。</p> <p>③ 海洋環境に加えて、人工構造物が表層回遊性資源の回遊生態に及ぼす影響について評価を行う際に必要となる基盤的知見を整理する。</p>
研究業務内容に関する問合せ先	日本海区水産研究所 業務推進部長 加藤修 TEL:025-228-0634